



群馬県立富岡高等学校全日制広報紙

富高通信

4月号 R03.4.14発行

群馬県立富岡高等学校

群馬県富岡市七日市 1425-1

TEL 0274-63-0053

FAX 0274-62-2745

「千里之行始於足下（千里の行も足下より始まる）」

校長 関口 博士

本校は、旧富岡高校と富岡東高校の統合により、平成30年に開校し、今年度は4年目を迎えました。この3月には、統合後に入学した生徒が、初めて本校を卒業しました。開校してからの3年間、令和2年度末の人事異動で転退職された先生方をはじめ、多くの人たちが、本校の教育活動を支えてくれました。

始業式、入学式で、「千里之行始於足下」ということばを紹介させていただきました。一つ一つの積み重ねによって、物事は成し遂げられるという意味のことばです。開校以来、多くの生徒、職員の取組によって、現在の富岡高校がかたちづくられてきました。今度は、わたしたちが、これからの富岡高校をつくっていく役割を担うことになります。

新型コロナウイルス感染症への警戒の意識を緩めることのできない状況にありますが、感染防止のための新しい生活様式を実践しながら、授業や学校行事、部活動等に積極的に取り組み、日々の生活を大切に、これからの富岡高校をつくっていくための一歩をしっかりと踏み出してもらいたいと考えています。

本校は、校歌に「こころばえ」と歌われる、「人品雅致、質実剛健、自主自立」の教育目標の下、高い志を持って、社会に貢献できる人材の育成に努めています。一人一人の「こころばえ」を大切にしながら、互いにより影響を与え合える関係を築き、地域からも信頼される富岡高校をつくっていきましょう。

令和2年度末人事異動における富高転退職者から富高生へのメッセージ

「富岡高校の2年間で振り返って」

校長 富田 忍(ご退職)

とても早く過ぎた2年間でした。素晴らしい生徒をはじめ、保護者の方々や教職員のご理解やご協力をいただき、充実した勤務をさせていただきました。ありがとうございます。男女共学となった新しい富岡高校は、これから益々、発展していく高校ですので、その主役となる生徒一人ひとりが、一日一日を大切に、勉学や部活動等の教育活動に全力を尽くして取り組んでください。富岡高校をこれからも応援していきたいと思っております。お世話になりました。富岡高校の関係の方々に感謝いたします。

「高き心を」

国語科 加藤 操(ご退職)

退職前の3年間、統合し男女共学校になった富岡高校で過ごすことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。真面目で心根の優しい素直な生徒や生徒の成長を温かく見守る先生方と過ごした日々は、40年の教員生活の中で最も心穏やかで、充実した3年間でした。校歌に「高き心は明日拓く」と謳われているように、高き目標に向かい、目の前のやるべきことを着実にやりましょう。きっと何か拓けてくることでしょう。皆さんの活躍を、これからも応援しています。

「日本で最初の・・・」

英語科 橋本 良晴 (ご退職)

教員生活37年のうちの最後の2年間を富岡高校で過ごせて、本当に幸運だったと思っています。ここに赴任するまでは、上毛カルタの「日本で最初の富岡製糸」くらいしか知りませんでした。しかし、富岡は非常に趣のある町で、1年目は食べ歩きをしたり、いろいろな所に行ったりもしました。学校でも、職員の方々や生徒の皆さんとたくさんお話することができ、気分良く毎日を送ることができました。素敵な2年間でした。ありがとうございました。

「富高生の皆さんへ」

養護教諭 西岡 広子 (富岡高校定時制へ異動)

富高生の皆さん、ご入学、進級おめでとうございます。新高校になってからの3年間、私はたくさんの生徒から「思いやりのある優しさ」をもらいました。その優しさは決して押し付けではなく自然と心と体に染みついた優しさでした。その優しさに触れて、私も教員として、成長できた気がします。私は、春から定時制で勤務させて頂くことになりました。すれ違うこともあると思いますので、見かけたら声をかけてください。

「大好きな富高校歌」

英語科 大槻 恭子 (前橋清陵高校へ転出)

統合を経た富岡高校では様々なことを経験でき、大変充実した日々でした。富岡高校の色々な面が好きですが、なかでも校歌が大好きです。旧富高と東高を表す言葉が散りばめられた歌詞が、男女混声合唱で歌われた時は感動を覚えました。伝統を引き継ぎながら、未来に向かう富高生の象徴だと思います。今はコロナ感染予防で歌うことが制限されていますが、全員で合唱できる日が早く戻ることを切に願います。

「有言実行」しよう！

国語科 佐藤 恵子 (藤岡中央高校へ転出)

富高生の良い所の一つは奥ゆかしさだと思いますが、自分のやりたいこと・目標は、声を大にして言うようにしましょう。日本人は昔から言葉には不思議な力が宿っていると信じていました。言葉に出すことで、後に引けなくなるという考え方もあるようです。言葉にすることで自分をその気にさせている、という先輩もいました。「無理な夢でも言葉にすれば、自然に身体はそれに向かうものさ」と歌ったバンドもいます。ぜひ、「有言実行」していきましょう。

「There is no royal road to learning.」

地歴公民科 濱名 和也 (藤岡中央高校へ転出)

この言葉は、「学問に王道なし」と訳されますが、学問を修めるのに簡単な方法はないという意味として使われています。しかし、私は学問を修めるためにはあなたに合った勉強方法が必要だ、ととらえています。高校時代失敗を繰り返しながら是非あなたに合った修学スタイルを身につけてください。いつ・どこで・なにを・どのようにやるのか、人それぞれ違って良いのですよ。そして、いつも「Que sais-je? クセジュ 私は何を知っているだろうか」と問いかけながら学びを向上させてください。この知的トレーニングこそが、あなたの生涯の財産になるはずです。

「自分の良さに気づき、伸ばす」

地歴公民科 落合 李愉 (上尾高校へ転出)

離任式のあいさつで伝えたように、富高生の良いところは、協調性・知的好奇心・素直さだと思います。高校生活は短いですが、たくさんの友人をつくり、多くのことを学び、前向きに取り組むことで卒業時に一生残る財産が得られるはずで
す。今はまだ自分の良さに気づいていない人も、さまざまな経験を通して自分を磨き、自分らしさを伸ばしてください。今後の活躍を期待しています。

保健体育科 八木原 零 (勢多農林高校へ転出)

旧富高2年、新富高3、計5年間お世話になりました。伝統ある男子校と女子校の統合に関われ、そして新高校での3年間をみなさんと一緒に成長することができて幸せでした。みなさんや関わっていただいた多くの方々、富岡高校という素晴らしい環境のおかげで今の自分があるのだと実感しています。身の回りにはたくさんの「ありがとう」が溢れていると思います。そういうところに目を向けながら日々充実した生活を送ってみてください。本当にありがとう!!!

「Seize the day!」

英語科 星 千智 (市立太田高校へ転出)

一生懸命、授業に集中していた富高生のキラキラした瞳を忘れません。知らなかったことを知る時、分からなかったことが分かるようになったときの、世界がぱっと輝く瞬間を大切にしてください。知識や考え方を身につけているということは、必ずみなさんの人生の糧になります。一日一日を大切に生きて下さい。私も富高での経験を糧に、次の学校でも一日一日を大切に過ごします。短い間でしたが、本当にありがとうございました。